

令和7年度（2025年度）第2回東海市青少年育成センター運営協議会 会議録

1 会 議 名

令和7年度（2025年度）第2回東海市青少年育成センター運営協議会

2 日 時

令和7年（2025年）10月22日（水） 午後2時から午後3時まで

3 場 所

東海市立教員研修センター 第1研修室（3階）

4 出席者

運営協議会委員

小野 偉稔、古谷 仁彦、内山 直隆（代理）、高木 眞子、坂野 友昭、
川北 夏代、小島 あづさ、山盛 峰一、河野 真平、森 尚久、廣田 雅明、
吉田 佳司

（計12人）

※欠席者 小島 晴美、高松 尚次

青少年育成センター職員

佐々木所長、櫻井主幹、平林少年指導員、岩田少年指導員

5 公開、非公開の別

公開

6 傍 聴 者

なし

7 協議事項

(1) 上半期の活動について

(2) 令和7年（2025年）東海市の少年における情勢について

(3) 下半期の事業計画について

(1)から(3)について、事務局より資料をもとに説明を行った。

8 その他

委員からの質問や青少年育成員街頭パトロールについて意見交換を行った。

【主な意見・質問】

＜令和7年（2025年）東海市の少年における情勢について＞

・東海市に居住する少年の非行について

（委員） 深夜はいかいについて、内容については例年と比較するとどうか。

（事務局） 内容については、例年と同じような状況で、塾の帰りに話し込んで遅くなってしまったというような深夜の遅くない時間に補導されることが多く、深夜の2時や3時に補導されたようなケースは少ない。夜は早く帰るように指導していきたい。

・青色防犯パトロール実施結果

（委員） パトロール中に不審者を発見したことはあるか。

（事務局） 直接不審者を発見したということはないが、学校の先生からいただいた情報からパトロール中に該当する人物と接触することはあった。

＜その他＞

・豊明市のスマホ条例について

（事務局） 事前に委員の方から「豊明市でスマホの私的利用時間制限の条例が可決されたが、東海市青少年育成センターとしてはどう考えているか？ちなみに私は、あいまいな時間制限よりも先にサイト閲覧制限アプリと不審メールチェックアプリの義務化と教育が先だと思う。」との御質問と御意見があった。

青少年育成センターの回答としては、この条例は、時間を制限したり、プライベートの過ごし方をコントロールしようとしているのではなく、2時間を超えて利用していた時間を心身の健康のため、家族や友人とのコミュニケーションや睡眠時間に充てるなど、時間の使い方を家族や個人で考えるきっかけづくりであると捉えている。青少年が健全に成長するためには、安定した家庭環境や良好な人間関係、バランスのとれた健全な生活習慣が大切であると考え、大きく話題となった今回の条例制定は意味があると考えている。

しかし、委員からの御提言のように、青少年を守るための対策と子どもたちが自分自身を守るための教育は必要不可欠であると考え。限られた時間をどのように過ごすのか、デジタルをどのように活用するのかという

ことは両輪で考えて青少年に伝えていく必要があると感じている。青少年育成センターでは、チラシによる啓発活動や出前講座として直接学校へ出向き、ネットトラブルを防ぐために情報モラル教室を実施しているが、今後も時代に合わせて青少年の健全育成に取り組んでいきたいと考えている。

この件について、他の委員のみなさんの御意見もいただきたい。

(委 員) きっかけとしていいのではないかな。悪い友達がいなければいいが、スマホを使った犯罪が行われている。スマホがない時代は、大人や地域がフィルターの役割をしていた。今は直接子どもに情報が入るため、子どもが自分自身で判断しなければならない。正しい判断ができないことにより、大麻などの薬物の害についても自分の都合のいいように捉えてしまう。スマホの使い方に関する教育が必要であると考えます。

(委 員) 教育を地道にしていくしかないのではないかな。また、家庭において親子で対話しながら使い方などを教えていくことも必要である。

(委 員) 小学校は、スマホを持ち込めるのか。名古屋市では持ってきてもいい学校があると聞いたことがあるが。

(委 員) 本市では100%に近いくらい持ち込まないのでは。また、小学生では持っていない家庭もある。中学生になると8割近くは持っているのではないかな。

・青少年育成員の街頭パトロールについて

(事務局) 今年度より回数やパトロールの方法を見直し実施している。青少年を取り巻く環境が変化する中で、今後のパトロールの在り方について、御意見をいただきたいと考えている。

(委 員) 昔に比べて子どもの様子が変わってきていると感じているが、パトロールはどこに行くのか。昔は夜に回っていたが、何時ごろパトロールをするのか。その時間に子どもはいるのか。

(事務局) パトロール先は公園や商業施設などさまざま。夜ではなく夕方に回っている。時間は、16時半や16時45分からなど地域に合わせた時間で回っている。公園では子どもが遊んでいることが多く、教員の育成員をみかけると子ども達が寄ってくるので、帰る時間や帰り道に気を付けるように

声をかけている。

(委 員) パトロールの時に子ども達の姿があるのであれば、今後も継続していいのではないかな。

(委 員) パトロールの回数はどのようになっているのか

(事務局) 今年度よりパトロールの回数を見直し、班編成も中学校単位から小学校単位に変更しパトロールを実施している。1地区につき約2カ月に1回のペースで行っている。

(委 員) 1回に出席する青少年育成員の人数を半分にして、1地区につき月1回はパトロールできるようにするといいいのではないかな。

(委 員) 以前と比較し子ども達の行動が変わってきている。子どもの姿がなくても地域を回り、そういう人がいることをみせることが必要であると考ええる。

(事務局) 愛知県内の少年非行の傾向はどうか教えていただきたい。

(委 員) 県下の非行集団は活発化してきている。後先考えないで行動する。少年がいきなり悪いことをするのかという非行にも段階があり、はじめは不良行為などで補導され、万引きや自転車盗などの初発型非行から重要犯罪に移行する。パトロールなどで声をかけることは意義がある。少年は声をかけられるとうっとうしいと感じるが、それだけでも効果はある。効率は悪いかもしれないが、防犯を含めてパトロールは行っていただけるといい。

(委 員) パトロールはどのような車で回っているのか。目立つ車であれば目につき有効であると考ええる。

(事務局) 青色回転灯をつけた公用車で回っている。車体には「防犯パトロール実施中」と書かれたマグネットシートを貼り、パトロールを行っている。

(委 員) 地域でのパトロールは今でもやっているのか。

(事務局) 今でも継続してパトロール活動を実施している地域もあると聞いているが、詳細は把握していない。

(委 員) 教員が参加しやすいようにパトロールの時間や回数を見直ししたことはいいのではと考える。

(委 員) 今後はサイバーパトロールも必要なのではないかな。